

## 事業の背景・目的

小笠原諸島は、海洋島として独自の進化を遂げた固有種が数多く、適応放散による進化が今も進行している稀有な生態系が評価され世界自然遺産に登録されている。しかしながら、外来種に対しては極めて脆弱で多くの固有種が絶滅の危機にさらされている。植物では環境省により国内希少野生植物について種ごとに保護増殖事業計画を策定し「自然状態で安定的に存続できる状態とすること」を目的として施策を行っている。当会は、清瀬樹木園の管理者として絶滅危惧種等の栽培を行ってきた経験と地元のアドバンテージを生かし、各関係機関と連携しながら**自生地に近い父島島内で希少野生植物3種の域外保全に取り組み**、種の絶滅を防ぎ生物多様性の保全を図っていく。

## 事業の内容

本事業は、小笠原諸島の父島に自生し保護増殖事業が策定されている国内希少野生植物 **9 種のうち3種 (ムニンノボタン、ウチダシクロキ、ウラジロコムラサキ)** を対象に父島内にある森林総合研究所清瀬樹木園内圃場において挿し木、播種による個体の増殖を行い、より強固な域外保全集団の形成に取り組む。系統保存をする事で遺伝的多様性を担保し種の絶滅を防ぐとともに野生復帰に必要な栽培技術の確立と生育条件等の科学的知見の集積を行う。**ムニンノボタンの新植栽地を検討し、野生復帰へ向け試験植栽を行う**と同時に啓蒙活動を進める。

| 令和 3 年度  | 令和 4 年度  | 令和 5 年度   | 種 名       | 挿し木保有数    | 播種保有数              |
|--|--|---|-----------|-----------|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>挿し木、播種による増殖事業</li> <li>圃場実生のモニタリング事業</li> <li>講演会の開催</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>挿し木、播種による増殖事業</li> <li>圃場実生のモニタリング事業</li> <li>新たな播種・植栽 (野生復帰) の好適地検討事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>挿し木、播種による増殖事業</li> <li>圃場実生のモニタリング事業</li> <li>ムニンノボタン試験植栽 (野生復帰) 事業</li> </ul> | ムニンノボタン   | 93系統 220本 | 17系統 37本           |
|  |  |   | ウチダシクロキ   | 14系統 50本  | 5系統 0本<br>(8粒 未発芽) |
|  |  |   | ウラジロコムラサキ | 9系統 30本   | 2系統 22本            |

## 得られた成果

ムニンノボタン、ウチダシクロキ、ウラジロコムラサキの穂木及び種子を用いて域外保全集団の形成に取り組み、目標数に近い個体の増殖作業を行うことができた。また、**父島島内の圃場における効果的な増殖手法を確立**した。父島で域外保全集団としての役割を果たすには、遺伝的多様性を担保することが重要と考え、より多くの遺伝子系統を保有出来るよう充実を図った。**ムニンノボタン、ウラジロコムラサキ**では生長過程で起きた問題や課題に対し工夫を重ねたところ**開花、結実する個体**があった。今後は、生長した実生が衰退することなく安定的に定着できる条件を探りその手法を開発する必要がある。ウチダシクロキは挿し木、発芽共に他種より時間を要するため、継続した取組みの必要性を改めて感じた。ムニンノボタンの新たな植栽好適地を模索するため、清瀬樹木園内4箇所と父島島内のフィールド10箇所へロガーを設置し環境データの収集を行った。**9 箇所の植栽地へ試験植栽を行い野生復帰の足掛かりとした**。また、村民参加の森作りイベントで希少植物保全の話とムニンノボタンの植栽を実施し普及啓発活動を行った。今後も、野生個体群を補強するための試験や自生地播種用の種子親として増殖苗を活用し保全再生に寄与する。本事業は初めて父島島内にて実施する域外保全活動であり、今後の野生復帰へ大きく貢献できると考える。